

# 老化と薬物療法 Part I

## ——薬物の吸収と分布——

■監修・指導 上田 慶二 東京都多摩老人医療センター院長  
■出演 堀 美智子 帝京大学薬学部 医薬情報室



### 主な内容

#### ■薬物吸収の変化

- 胃液酸度低下  
酸性で溶解する薬物の吸収阻害
- 肝機能低下  
初回通過効果が大きい薬物の  
生体利用率増大
- 消化管運動低下  
吸収遅延

#### ■薬物分布の変化

- 細胞内水分減少  
水溶性薬物の血中濃度上昇
- 体内脂肪増加  
脂溶性薬物の血中濃度低下  
消失半減期延長
- 血清アルブミン値減少  
血中遊離薬物濃度増大

高齢者に対しては、治療法として薬物療法が選択される傾向がありますが、高齢者は種々の疾患を併発することが多い上に、特有の生理的变化により、成人とは薬効・副作用の発現が異なっています。

このビデオプログラムは、高齢者においては薬物の体内動態にどのような変化が生じているのか、薬剤師が何に注意すべきでどのような薬剤が対象になるのかについて紹介するものです。

Part Iでは高齢者において薬物の吸収・分布を変化させる要因と、それらに対する留意点をテーマにしています。高齢者では体内薬物動態のみならず、薬物レセプターの数、親和性が低下する場合もあり、投与量の判断、薬効・副作用の予測は一筋縄ではいきません。そこでこのビデオでは、血中濃度に加えて、薬物のpKa、初回通過効果、油水分係数、蛋白結合率の情報をインタビューフォームから得て、総合的に判断する必要があることについて解説します。

### プログラム委員会

- 委員長  
五島雄一郎 東海大学医学部附属病院 名誉病院長
- 委員  
西垣 克 東京大学大学院 国際保健計画 助教授  
木村 徳三 社会福祉法人 三井記念病院 薬剤部長  
佐谷 圭一 日本薬剤師会 常任理事

- 監修：財団法人 日本薬剤師研修センター
- 協賛：日本イーライリリー株式会社
- 制作：株式会社スタンダード・マッキンタイヤ
- 後援：社団法人 日本薬剤師会  
社団法人 日本病院薬剤師会